

対人援助学会 第15回年次大会 広島大会のお知らせ（第1号通信）

昨年度の第14回年次大会新潟大会でもご案内したように、2023年度の**第15回年次大会は、広島市で開催**いたします。昨年度から3年間の研究テーマとなった「**社会とともにある対人援助学～これまでとこれから**」を引継ぎ、世界最初の原子爆弾が投下されて70年以上が経つヒロシマで、それぞれの実践の場と社会のあり様について大いに語り合い、つながることができればと思います。コロナ禍を乗り越え、集会形式では第11回大会以来4年ぶりの開催です。ぜひ11/11～12、広島でお会いしましょう！

【大会概要】

日 程：2023年11月11日（土）～12日（日）

会 場：比治山大学6号館（広島市東区牛田新町4丁目1-1）

参加費：一般3000円 学会員：2000円 学生：500円

テーマ：「対人援助の多様性と持続可能性」

私たちが関わる「対人援助」という分野は、これまで主に福祉や医療・心理・教育といったものが中心としてイメージされてきた。しかし近年そのあり方は、当学会の対人援助学研究や対人援助学マガジンにも見られるように多様化してきている。また、昨今語られることの多い持続可能性というキーワードは、バーンアウトの問題や担い手不足など、対人援助分野でも重要なテーマである。

今大会の開催地・広島は、被爆地ヒロシマとして反核平和の象徴という命題を持ち、戦後70年を超えてその活動を多様に発展・進化させているが、一方で人口減少や高齢化に直面する一地方都市として、地域社会の持続可能性という課題に向き合う側面も持っている。

こうしたことからここ広島で、人への援助や平和な社会の「多様性」や「持続可能性」について考え、対話を深めていくことは、私たちの今後の実践にもつながる意義深いことと思われる。

たくさんの方の多様な個性と、豊かで自由に語らえる大会にしたいと願っている。

【プログラム概要】（予定）

11月11日（土）

- ・ 広島で被爆者支援や反核平和教育などを行ってきた国際 NGO 「ANT-Hiroshima」の渡部朋子理事長による記念講演。
- ・ 理事会企画、企画ワークショップ、ポスター発表など。
- ・ オプションツアー（希望者のみ）として「被爆樹木フィールドワーク」を計画中。

11月12日（日）

- ・ ポスター発表（質疑応答）、理事会企画、企画ワークショップなど。

※ ポスター発表（15～20程度）と企画ワークショップ（2～4）を募集します。詳細は7～8月頃の第2号通信でご案内します。ふるって応募ください。

※ 大会に向けた企画として8～9月頃にオンラインでの研究会を計画しています。詳細は後日当ホームページでご案内します。

広島大会実行委員会共同代表 岡崎正明、迫共